

余市町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

本事業は、維持の難くなった生活路線の輸送効率を改善し、「余市循環線」として新規運行し、町民の生活交通手段を確保するものである。

地域公共交通の現況

- ・ JR函館本線（余市駅）
- ・ バス（高速4路線・幹線3路線・地域内3路線（他町村2路線+余市循環線1路線）
- ・ スクールバス（3路線）
- ・ タクシー（1社）

生活交通確保維持改善計画の目標

年間輸送人数: 34,700人

収益率: 55%

行政負担額: 3,900千円

バス事業者負担額: 0千円

【車両減価償却費等国庫補助金の目標も同じ】

協議会開催状況

R4年6月17日 第16回協議会を開催
主な協議事項: 地域公共交通計画の改定・
余市循環線について
R6年1月(書面) 第22回協議会を開催
主な協議事項: 地域公共交通確保維持改善
事業の事業評価

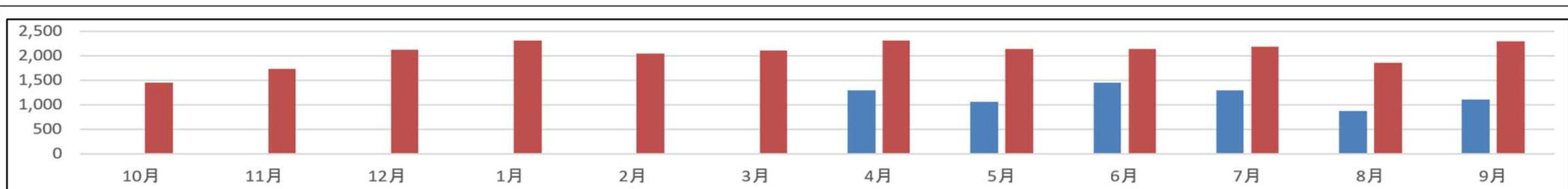
令和5年度事業概要

運行系統名: 余市循環線 運行区間: ①余市循環線(登校便): 余市駅前→余市協会病院→余市紅志高校
②余市循環線(通常便): 余市駅前→余市協会病院→余市駅前
③余市循環線(下校便): 余市紅志高校→余市協会病院→余市駅前

運行回数: 合計1,086回(①301.5回、②361回、③423.5回) 運賃: 200円(法定協議運賃)* 小児運賃有り

【車両減価償却費等国庫補助】

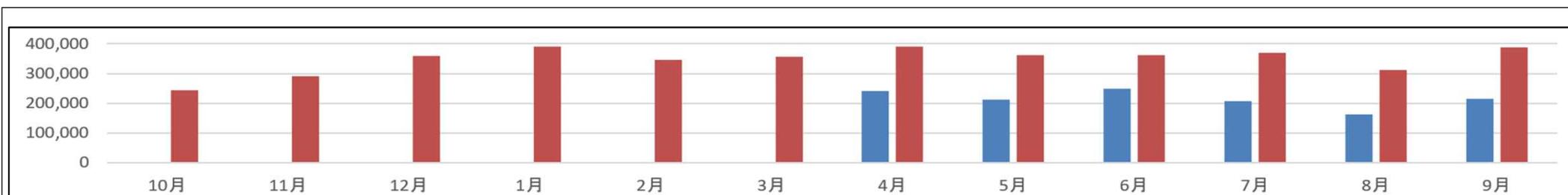
3) 利用実績



単位：人

| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 計 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| R4実績 | | | | | | | 1,300 | 1,057 | 1,457 | 1,294 | 874 | 1,112 | 7,094 |
| R5実績 | 1,450 | 1,732 | 2,126 | 2,309 | 2,048 | 2,112 | 2,314 | 2,139 | 2,137 | 2,192 | 1,854 | 2,304 | 24,717 |

4) 収入実績



単位：円

| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 計 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| R4実績 | | | | | | | 241,874 | 213,047 | 248,845 | 205,662 | 163,548 | 215,253 | 1,288,229 |
| R5実績 | 244,621 | 292,103 | 358,762 | 389,522 | 345,723 | 356,412 | 390,461 | 361,011 | 360,739 | 369,948 | 312,842 | 388,908 | 4,171,052 |

5) 事業実施の適切性

① 運行便数

登校便: 平日2便、休日1便

通常便: 平日1便、休日1便

下校便: 平日3便、休日1便

➡いずれも当初計画通りの運行を実施

② 運賃 法定協議運賃として計画通りに実施

③ 実施主体 計画通りの実施主体にて運行実施

他、周知活動として運行ダイヤチラシの配布を4月・12月に町内全戸配布。

6) 目標・効果達成状況

① 余市循環線の年間輸送人数は目標値34,700人に対して24,717人であった。

② 余市循環線の収益率55%に対して46.2%であった。

①に関しては、目標設定時に、運行路線を余市協会病院線から余市循環線に合理的な短縮を図ったことによる停留所数減による減少率を加味していなかったことから、過大な目標設定となっていたことに起因するものと考えられるが、昨年度対比では1.7倍の増となり目標値は満たさないものの、着実に利用増が図られている。

②に関しては、目標値は達成していないものの、余市協会病院線運行時の収益率を上回る結果となった。

③ 余市循環線の行政負担額は目標値3,900千円に対して見込み値3,005千円

④ 余市循環線のバス事業社負担額 0千円に対して見込み値0千円となり、目標値は達成する見込みである。

車両減価償却費等国庫補助の目標・効果達成状況も①～③に同じ。

7) 事業の今後の改善点

令和4年4月が初事業となり、まだ運行結果を注視する段階にあると考えるが、目標値として設定した輸送人数と収益率に達していない。

今後、主に冬期の実績に注視し、需要に合わせた路線への変更を再度検討する。

また、現在は住民への浸透期間であると考えられるが、引き続きパンフレット等による周知活動をより行うことで「持続可能な公共交通」として根付くようにしていきたい。

この他、余市町地域公共交通活性化協議会において、郊外部の交通空白地域の交通手段を検討しており、この交通手段との接続もできるようにしていく。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

(令和6年度分と併せて評価)